

KORG

PERFORMANCE SIGNAL PROCESSOR

A5

BASS

取扱説明書

とにかくベースギターと接続しよう	3
プリセットのプログラムを演奏しよう	4
個々のエフェクトをオン・オフしてみよう	5
エフェクトを自分で作ってみよう	6
作ったエフェクトを記憶させよう	8
知っていると便利な機能	9
エフェクトパラメータリスト	10

このたびは、コルグ・パフォーマンスシグナルプロセッサ―A5 BASSをお買い上げいただきありがとうございます。A5 BASSを末永くご愛用していただくために、この取扱説明書をよく読んで、正しい方法でプレイをお楽しみください。

目次

使用上の注意	1	知っている便利な機能	9
各部のなまえと機能	2	1. プリセット・データとの比較	9
とにかくベースギターと接続しよう	3	エフェクトパラメータリスト	10
プリセットのプログラムを演奏しよう		1. コンプレッサ	10
〈プログラム・モード〉	4	2. 5バンドイコライザー	10
個々のエフェクトをオン・オフしてみよう		3. ダイナミックエキサイター	11
〈マニュアル/エディット・モード〉	5	4. コーラス/フランジャー	11
エフェクトを自分で作ってみよう		5. リバース/ディレイ	12
〈マニュアル/エディット・モード〉	6	6. ユーティリティ	12
ユーティリティについて	7	エラーメッセージ	13
作ったエフェクトを記憶させよう		故障かな?と思ったら	13
〈プログラム・ライト〉	8	スペック/オプション	14

使用上の注意

■使用する場所■

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因になりますのでご注意ください。

- ・直射日光が当たる場所
- ・温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- ・砂やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

■電源■

ACアダプターは、必ず付属のKAC-301をお使いください。

■他の電気機器への影響■

本製品はマイクロコンピューターを使用した製品です。このため接近してラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、それらに雑音が入る場合があります。ラジオ、テレビなどの機器からは十分離してご使用ください。

■取扱はやさしく■

スイッチやつまみに必要以上の力を加えますと、故障の原因になりますのでご注意ください。

■お手入れ■

外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャー等は絶対に使用しないでください。

■保証書の手続き■

製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間となり、修理は無償となりますが、購入店の手続きがない場合は無効になります。必ずお求めになった販売店で保証書に所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

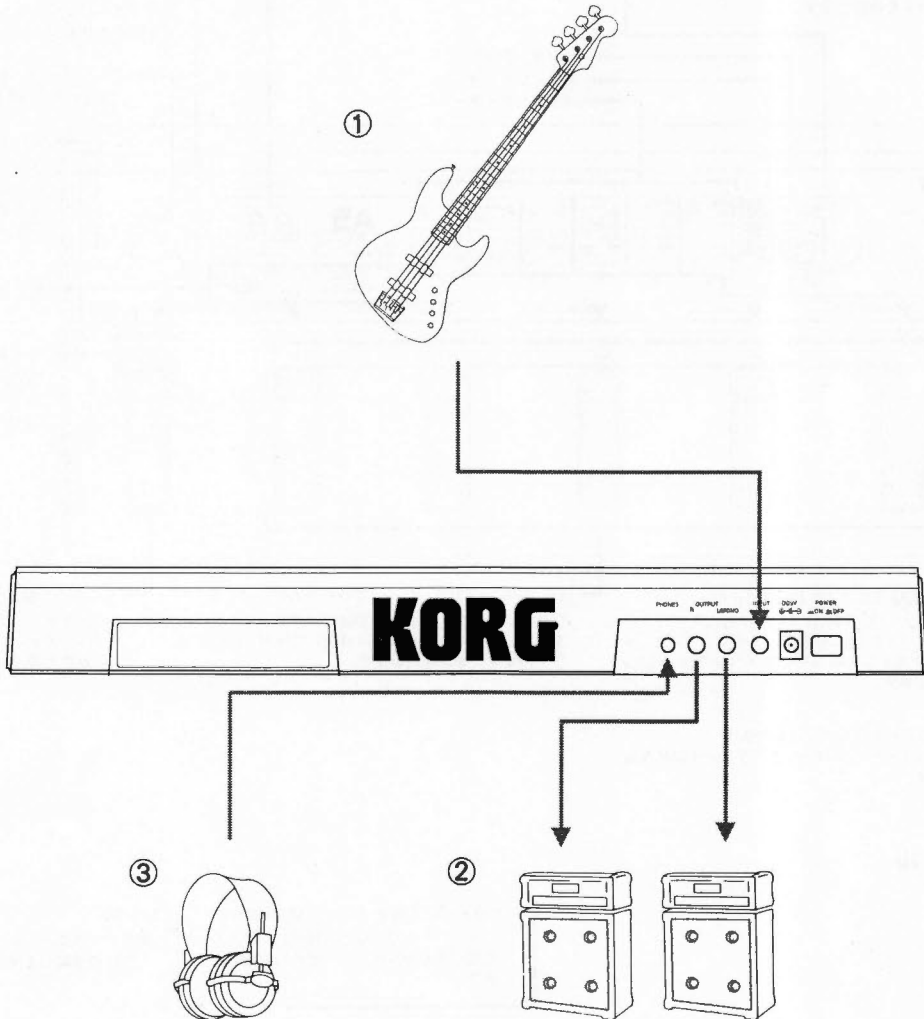
■取扱説明書は大切に■

今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになったあとも大切に保管してください。

とにかくベースギターと接続しよう

- ①ベースギターをインプット端子に接続します。
- ②ベースアンプをアウトプット端子に接続します。(ステレオで接続すると効果的です。モノラルで使う時はL/MONOに接続してください。)
- ③ヘッドホンを接続して、ステレオでモニターできます。
- ④接続を終えてから電源をオンにしてください。

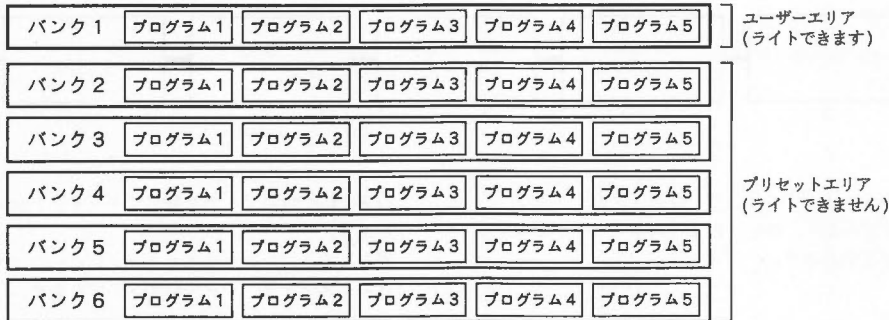
注：A5 BASSの電源をON/OFFするときは、各機材のボリュームを下げてください。



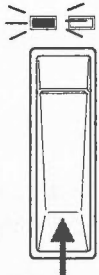
プリセットのプログラムを演奏しよう (プログラム・モード)

プリセットプログラムとは？

A5 BASSは全部で30個の、エフェクト・プログラムを持っており、5個ずつ6つのバンクに分かれています。このうちバンク2～6の25個をプリセット・プログラムといいます。バンク1はユーザー用となっており、自分で作ったプログラムを保存できます (P.8)。

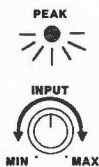


1. パワースイッチをオンにすると自動的にプログラム・モードに入ります。その他のモードにいる時は、モード切り換えスイッチを押すとプログラム・モードに入ります。



PROGのLEDが点灯している状態にする。

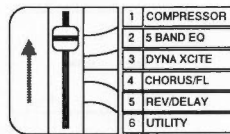
2. ベースを弾いてインプット・ボリュームを調節します。最も強くベースを弾いた時に、ピークインジケータがかすかに点灯するようにします。



最も強く弾いた時、かすかに点灯する程度に設定。

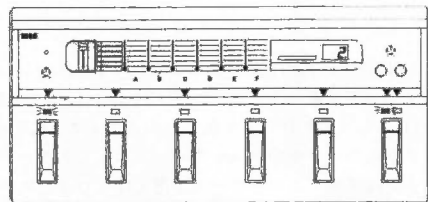
3. バンク/エフェクト・セレクト・スイッチで使いたいプログラムが入っているバンクを選びます。(プログラムの内容は付属の“パラメータリスト”参照。)

例としてバンク2を選びます。



バンク/バリュースプレイにバンクナンバーが表示される。

4. EFF/PROGスイッチ (1～5) でプログラムを選びます。例としてバンク2の1番“Slap I”を選びます。



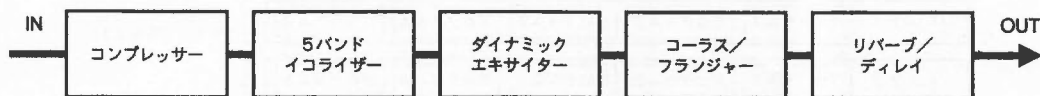
5. ベースを弾くと“Slap I”の効果がかった音で演奏できます。一時的に、エフェクトのかからない音を出したい時は、バイパス・スイッチを押します。もう一度押すとエフェクト音に戻ります。(バイパス時はモードLEDが点滅します。)
6. 3からの操作を繰り返して、いろいろなバンクのプログラムを演奏してみましょう。同じバンクのプログラムを選ぶ場合は、EFF/PROGスイッチだけを押します。

注：バンクスイッチを変えただけではプログラムは変わりません。EFF/PROGスイッチを押した時点でプログラムは変わります。

個々のエフェクトをオン・オフしてみよう

〈マニュアル/エディット・モード〉

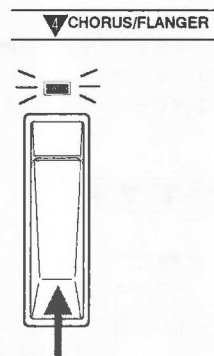
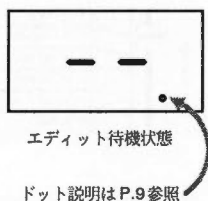
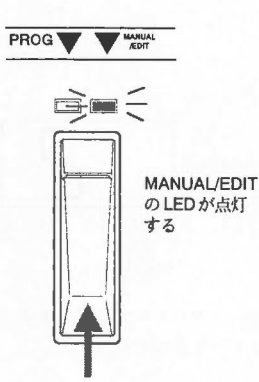
A5 BASSは、下図のように5つのエフェクトがつながって構成されています。各エフェクトをエディットし、組みあわせたものがエフェクト・プログラムです。個々のエフェクトはオン・オフすることができます。いろいろなプログラムで、個々のエフェクトをオン・オフし、効果の違いを聞いてみましょう。



1. モード切り換えスイッチを押して、マニュアル/エディット・モードに入ります。モードLEDとバリュー・ディスプレイの表示が変わります。

2. EFF/PROGスイッチを押してエフェクトをオン・オフしましょう。

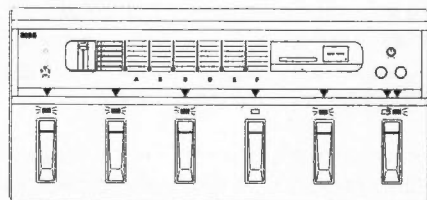
例として、(4) コーラス/フランジャーのスイッチを押すとコーラス/フランジャーがオンになります。



また、EFF/PROG LEDの表示も変わります。マニュアル/エディット・モードでは、EFF/PROG LEDとEFF/PROGスイッチが5つのそれぞれのエフェクトに対応し、プログラムモードからマニュアル/エディットモードに移ったときはプログラム・モードで選んだプログラムの、オンになっているエフェクトのLEDが点灯します。例えばプログラムモードでバンク2の1番"Slap I"を選んだ状態からマニュアル/エディット・モードに入ると、次のようになります。

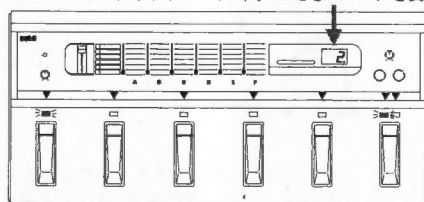
3. もう一度スイッチを押すとオフになります。いろいろなエフェクトをオン・オフして弾いてみてください。

4. 別のプログラムで試したい場合は、一度プログラム・モードに戻ります。モード切り換えスイッチを押してプログラム・モードに入ると、モードLED、EFF/PROG LED、バンク/バリュー・ディスプレイの表示が元に戻ります。(マニュアル/エディット・モードに入る前の表示に戻ります。) 呼び出したいプログラムに切り換え、同様の操作を行ってください。



Slap Iでは、COMPRESSOR、5 BAND EQ、DYNA XCITE、REV/DELAYの4種類のエフェクトが使用されています。

マニュアル/エディットモードに入ったときのバンクを表示



エフェクトを自分で作ってみよう

〈マニュアル/エディット・モード〉

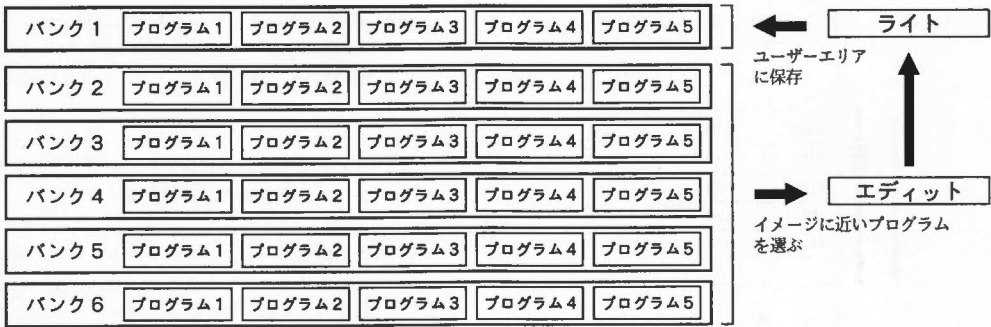
パラメータ・エディットとは？

各エフェクトのかかり具合や、細かい設定を変えることを”エディットする”といいます。そのために、各エフェクトごとに変更可能な要素を選び出したものが”パラメータ”です。このパラメータ・エディットを行うことによって、自分の求めるエフェクトを作り出すことができます。

パラメータ・エディットには2つの方法があります。

- (1) プリセット・プログラムの中からイメージに近いプログラムをさがし、それを元にして新しいエフェクトを作り出す方法。
- (2) ユーザーエリアのプログラムを選び、パラメータを1から作り出す方法。

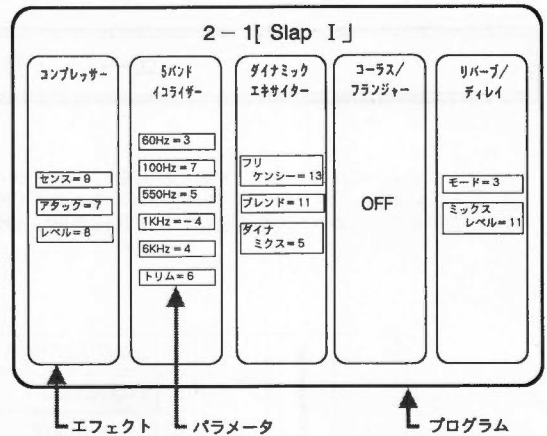
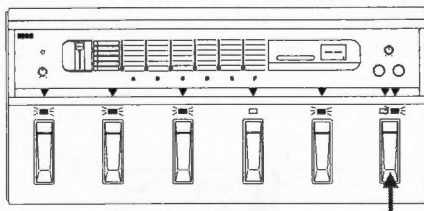
最初は (1) の方法から始めた方が簡単です。



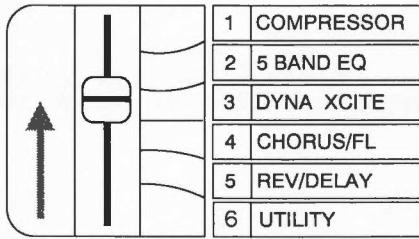
1. まず、プログラム・モードで元にしたたいプログラムを選びます。例としてバンク2の1番”Slap I”を選びます。(P.4参照)

2. モード切り換えスイッチを押してエディット・モードに入ります。モードLED、バリュー・ディスプレイ、EFF/PROGスイッチの表示が変わります。

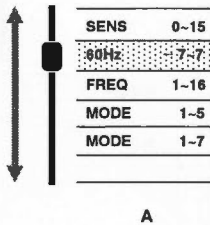
このプログラムのパラメータは、以下のように設定されています。



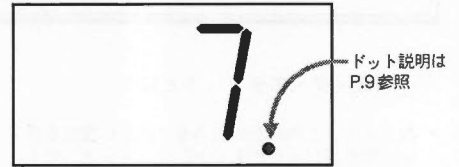
3.バンク/エフェクト・セレクト・スイッチを押して、エディットするエフェクトを選びます。例として“DYNA XCITE (ダイナミックエキサイター)”を選びます。



4.フロントパネルのパラメータ・ネームを見て、変更したいパラメータの左側のパラメータ・エディター (A~F) を調節します。例としてフリケンシーを変えてみましょう。“DYNA XCITE”の“FREQ”の下のパラメータ・エディターAを調節し、音色の違いを聞いてみてください。



5.パラメータ・エディターを動かすと、バリュー・ディスプレイにその値が表示されます。



6.同様にバンク/エフェクト・セレクト・スイッチとパラメータ・エディターを使って、他のパラメータも変えてみましょう。
(各パラメータの詳しい説明はP.10~12参照。各プリセット・プログラムのパラメータ値は、“パラメータリスト”参照。)

注：オフになっているエフェクトは、エディットしても音が変わりません。一度オンにしてからエディットしてください。(P.5)

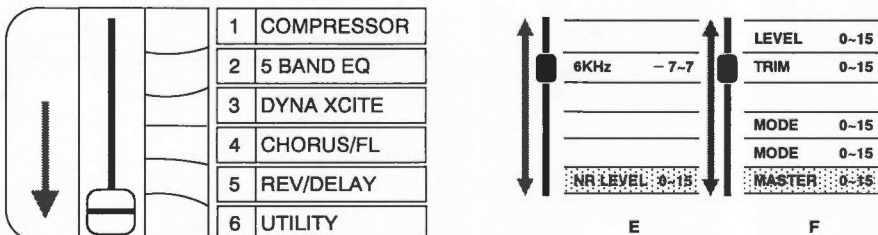
★別のプログラムをエディットしたい場合は、一度プログラム・モードに戻ります。この時、今エディットしたデータを保存したい場合は“プログラム・ライト”を行ってください。(P.8)

注1：ライトせずに別のプログラムを選ぶと、エディット・データは消えてしまうのでご注意ください。

注2：この時までバンク/エフェクト・セレクトスイッチはエディットするエフェクトを選ぶために使われていたので、プログラム・モードに戻った時スイッチの位置とバンクの表示が違うことがあります。別のプログラムを選ぶ時は、必ずバンク/エフェクト・セレクトスイッチでバンクを選び直してからEFF/PROGスイッチを押してください。

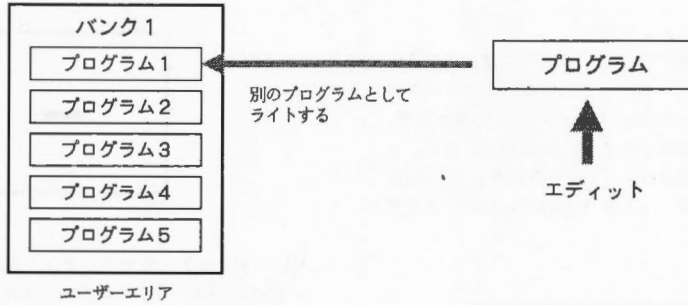
ユーティリティーについて

ユーティリティーでは個々のエフェクトとは別に、プログラム単位に必要なパラメータを設定します。NR LEVEL (ノイズ・リダクション・スレッシュールド・レベル) では各プログラムのノイズ・リダクションの設定ができます。MASTER (マスター・ボリューム) では、各プログラムのレベルを設定します。(P.12参照)。設定方法は他のパラメータと同じです。

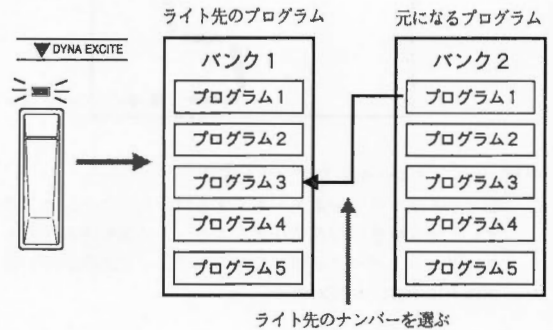


作ったエフェクトを記憶させよう 〈プログラム・ライト〉

パラメータ・エディットを行い、自分で作ったプログラムはユーザー・エリアのバンク1に記憶させておくことができます。この操作をプログラム・ライトといいます。この時、バンク1のライト先のプログラム・ナンバーにそれまで入っていたデータは消えてしまいます。(工場出荷時のバンク1のデータは、バンク2~6の中からセレクトしてライトしたものです。)

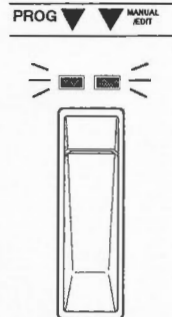


1. 例として、バンク2の1番“Slap I”をエディットしたものを、新しいプログラムとしてライトします。エディット・モードでエディットを終えた状態からライト・スイッチを押します。



3. もう一度ライト・スイッチを押します。ライトが終了するとモードLEDが両方点灯します。(約1秒)

バリュー・ディスプレイの表示が次のようになります。これはバンク1、つまりユーザー・エリアへライトすることを示します。



2. バンク1のどのプログラム・ナンバーにライトするかを設定します。EFF/PROG スイッチ (1~5) を押して、ライト先のナンバーを選びます。例として、プログラム・ナンバー3に選択します。

★途中でライトモードを止めたい場合は、ライト・スイッチを押さずにモード切り換えスイッチを押してください。

プログラム・モード内で直接ライトを行うこともできます。プリセット・プログラムの中から自分の好みのプログラムを選び、使いやすい順番に並べるような場合に便利です。

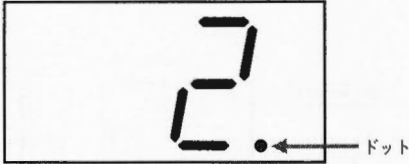
知っている便利な機能

1. プリセット・データとの比較

プリセット・データおよびユーザー・エリアにライトしたデータと、効果を比較しながらエディットしたい場合には、バリュー・ディスプレイのドット表示が目安になります。ドット表示は次のような場合に現れますので、エディットの参考にしてください。

A) プログラム・モードのドット表示

A5では、バンクを選んだだけではプログラムは変わりません。バンクを選んだ後、そのバンクの何番目のプログラムを呼び出すのかをEFF/PROGスイッチ1~5で選びます。この2つの一連の動作が終わるとドットを点灯します。ドットが点灯していない場合は、バンクのみがセレクトされ、プログラムナンバーがまだセレクトされていないことを表示します。



C) エディット・モードのドット表示

個々のパラメータをエディットする時、設定した値が現在プログラムモードで選択されているプログラム・データと同じなら、設定値の表示の右下にドット表示が現れます。



B) マニュアル・モードのドット表示

個々のエフェクトをオン・オフする時、そのエフェクトのオン・オフ状態が現在プログラムモードで選択されているプログラム・データと同じなら、エディット待機表示の右下にドット表示が現れます。

エフェクト・パラメータ・リスト

1. COMPRESSOR [COMPRESSOR] コンプレッサー

◆入力された信号を圧縮して、出力レベルを一定に保つエフェクトです。サステーン（音の伸び）を長くする効果や、ピッキング時のアタックを強調する効果が得られます。

◆パラメータ

A	SENS (センス)	[0~15]	コンプレッサー効果の深さ。この値を大きくするほどサステーンやアタックの効果が強くなります。
B	ATTACK (アタック)	[0~7]	アタックの強さ。
F	LEVEL (レベル)	[0~15]	エフェクト音の出力レベル。

2. 5 BAND EQ [5 BAND EQ] 5バンド イコライザー

◆ベースギターの音作りに有効な5つの音域を選び出した、グラフィック・タイプのイコライザーです。

◆パラメータ

A	60Hz (60ヘルツ)	[-7~7]	60Hzを中心とする音域のゲイン（増幅度）。
B	100Hz (100ヘルツ)	[-7~7]	100Hzを中心とする音域のゲイン。
C	550Hz (550ヘルツ)	[-7~7]	550Hzを中心とする音域のゲイン。
D	1KHz (1キロヘルツ)	[-7~7]	1KHzを中心とする音域のゲイン。
E	6KHz (6キロヘルツ)	[-7~7]	6KHzを中心とする音域のゲイン。
F	TRIM (トリム)	[0~15]	イコライザーの入力ゲイン。

☆ワンポイント アドバイス

『TRIMを使ってクリップ防止！』

イコライザーの各ゲインを最大付近まで上げると、入力のピークLEDが点灯していなくても出力がクリップ（歪む）してしまいます。この場合 TRIM の値をクリップしなくなるまで下げてください。

3. DYNAMIC EXCITER [DYNA XCITE] …………… ダイナミック・エキサイター

◆特定の音域の倍音を強調することによって、音の輪郭をはっきりさせるエフェクトです。ピッキングの強弱によって、効果の強さが変わります。たとえば、チョッパー奏法で弾いた時だけエキサイターをかけるというような設定が可能です。

注：倍音 ささまざまな楽器音は通常基音といくつかの倍音によって作られています。基音とは音程を決定する成分で、倍音とは音色を特色づける成分です。

◆パラメータ

A	FREQ (フリケンシー)	[1~16]	エキサイター効果をかける音域の設定。
B	BLEND (ブレンド)	[-2~12]	エキサイター効果の強さ。この値を大きくするほど効果は強くなります。マイナスに設定すると倍音をカットします。
C	DYNAMICS (ダイナミクス)	[0~15]	ピッキングの強弱によってエキサイター効果の強さが変化する、変化幅の設定。0に設定するとピッキングの強弱に関係なくブレンドで設定した強さの効果になります。値を大きくしていくと、ピッキングが弱い時にはブレンドで設定した強さ、ピッキングが強い時には更に強い効果がかかるようになります。

4. CHORUS/FLANGER [CHORUS/FL] …………… コーラス/フランジャー

◆音程を周期的に変化させ、厚みと広がりを持たせるエフェクトです。

2つのコーラス、さらに強いうねりを加えた2つのフランジャー、ディレイタイムの長いスラップバックの5つのモードがあります。

◆パラメータ

A	MODE (モード)	[1~5]	1：フランジャー1（高い音程でうねります。） 2：フランジャー2（低い音程でうねります。） 3：コーラス1（ディレイタイム=24mSEC） 4：コーラス2（ディレイタイム=32mSEC） 5：スラップバック（ディレイタイム=75mSEC）
B	SPEED (スピード)	[0~15]	音程変化のスピード。
C	DEPTH (デプス)	[0~15]	効果の深さ。この値を大きくするほど音程変化が大きくなります。
D	F.BACK (フィードバック)	[0~15]	フィードバックの量。モード1~2では15に近づけるほどうねりが強くなります。モード3~4では、0に近づけるほどクリアなコーラス効果が得られます。
F	MIX (ミックスレベル)	[0~15]	エフェクト音とダイレクト音のバランス。0でダイレクト音のみになり、15でエフェクトとダイレクト音が50%づつになります。

5. REVERB/DELAY [REV/DELAY] リバーブ/ディレイ

◆ホール、ルームなどの残響をシミュレートすることによって音色に臨場感を与えるリバーブ効果、入力音を遅延させるディレイ効果、リバーブとディレイを組み合わせる事によって深い残響を作り出すエコーバンプ効果の7つのモードがあります。

◆パラメータ

A	MODE (モード)	[1~7]	1: ホール・リバーブ 2: アンサンブル・ホール・リバーブ 3: ルーム・リバーブ 4: プレート・リバーブ 5: ライブステージ・リバーブ 6: エコーバンプ 7: ディレイ
B	TIME (ディレイタイム)	[0~3] (MODE6) [0~4] (MODE7)	ディレイタイムを100mSEC (1/10秒) 単位で設定します。MODE1~5では設定できません。
C	FINE (ディレイタイムファイン)	[0~9]	ディレイタイムを10mSEC (1/100秒) 単位で設定します。MODE1~5では設定できません。
D	F.BACK (フィードバック)	[0~15]	フィードバックの量。この値を大きくするほど、ディレイ音の繰り返しが多くなります。MODE1~5では設定できません。
F	MIX (ミックスレベル)	[0~15]	エフェクト音とダイレクト音のバランス。0でダイレクト音のみになり、15でエフェクトとダイレクト音が50%づつになります。

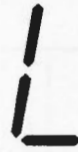
6. [UTILITY] ユーティリティー

◆ユーティリティーでは、各プログラムのマスターボリュームとノイズ・リダクション (NR) のスレッシュールド・レベルを設定します。

◆パラメータ

E	NR LEVEL (ノイズ・リダクション・スレッシュールド・レベル)	[0~15]	この値を大きくするほどノイズ・リダクションの効果が強くなります。ベースの弦を軽くミュートしたときノイズが聞こえなくなる程度に設定します。
F	MASTER (マスターボリューム)	[0~15]	この値を大きくするほどプログラムの出力レベルが大きくなります。

エラーメッセージ



L (バッテリーロウ)

起動時に上記表示が出ると、プログラム・データを保持するための電池の電圧が下がっていることを示します。(また、起動のたびにF表示が出る場合も同様です。) A5 BASSをお買いになった販売店、またはお近くのコルグ・サービスセンターまで問い合わせください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、次の事柄を確認してください。それでも症状が改善されない場合は、お近くの販売店、サービスセンターまでお問い合わせください。

症 状	原 因
音が出ない	<ol style="list-style-type: none"> 1.インプット・ボリューム、アウトプット・ボリュームが0になっていませんか？ 2.バイパス・スイッチを押すと音が出る場合、各プログラムのマスターボリュームや各エフェクトのレベルが0になっていませんか？エディット・モードに入って確認してください。
エフェクトがかからない。 またはエディットしても 効果がかからない。	<ol style="list-style-type: none"> 1.エディット・モードに入っていますか？モードLEDを見て確認してください。 2.エフェクトの選択は間違っていないか？エフェクト・セレクト・スイッチの位置を確認してください。 3.バイパス状態になっていませんか？モードLEDが点滅していたらバイパス状態になっています。バイパス・スイッチを押して、バイパス状態を抜けてください。 4.エフェクト・パラメータのミックスレベルが0になっていませんか？確認してください。 5.エフェクトがオフになっていませんか？EFF/PROG LEDが点灯しているかどうか確認してください。
ライトしたはずなのに ライトされていない。	<ol style="list-style-type: none"> 1.ライトできるのは、バンク1の1~5の5つのプログラムに対してだけです。 2.ライトの操作を行った直後にプログラムナンバー及びバンクはライトした元の状態になっています。ライト先のプログラムへ行きたいときは、バンク1をセレクトしなおしてください。

スペック/オプション

- ・内蔵エフェクト
COMPRESSOR、5 BAND EQ、DYNAMIC EXCITER、CHORUS/FLANGER、REVERB/DELAY
- ・プログラム プリセット=25、ユーザー・メモリー=5
- ・フロントパネル
ボリューム：インプット・ボリューム、アウトプット・ボリューム
スイッチ：バンク/エフェクト・セレクトスイッチ、ライト・スイッチ、バイパス・スイッチ、EFF/PROGスイッチ、
モード切り換えスイッチ、パラメータ・エディター
ディスプレイ：バリュー・ディスプレイ
ドットタイプLED：EFF/PROG LED、モードLED
ピークインジケータ
- ・リアパネル
パワースイッチ
DC9V ACアダプター端子
インプット端子
アウトプット端子 (R、L/MONO)
ヘッドホン端子
- ・サンプリング周波数 44.1kHz
- ・ダイナミックレンジ 88dB (IHF - A)
- ・電源 DC9V (ACアダプター KAC-301使用)
- ・消費電流 250mA
- ・入力インピーダンス 1M Ω
- ・最大入力レベル +8dBm
- ・出力インピーダンス 5k Ω 以下
- ・最大出力レベル +8dBm
- ・外形寸法 430 (W) \times 205 (D) \times 60 (H) mm
- ・重量 1.5kg

※外観および仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

- ①消耗部品（電池など）を交換する場合。
- ②輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
- ③天災（火災等）によって生じた故障。
- ④故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
- ⑤コルグサービスステーション及びコルグ指定者以外の手によって修理、改造された部分の修理が不適当であった場合。
- ⑥保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
- ⑦保証期間が切れている場合。
- ⑧日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、3か月以内に限り無償修理いたします。

また仕様変更に関しては有償になりますので、ご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取り扱い店、またはコルグ・インフォメーションセンターまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと、修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任をもってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年を基準に保有しております。

ただし外装部品（パネル、スイッチなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

株式会社コルグ

インフォメーションセンター	〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5新宿第一富士ビルB1F	☎ (03) 3363-5995
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸1-12-17	☎ (03) 3323-5241
横浜営業所	〒220 横浜市西区北幸2-10-42寺内ビル2F	☎ (045) 324-7776
北関東営業所	〒331 大宮市桜木町4-929-2	☎ (048) 644-6800
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F	☎ (06) 374-0691
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51	☎ (052) 832-1419
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F	☎ (092) 531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの営業所、または下記までお問い合わせください。
営業技術課：〒157 東京都世田谷区南鳥山4-28-20 ☎ (03) 3309-7001

＜WARNING＞

This product is only suitable for sale in Japan. Property qualified service is not available for this product if purchased else where. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection. (この英文は、日本国内で本製品を購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

KORG

■本社：〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎ (03) 3325-5681 ☎ インフォメーションセンター：〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5第一富士ビルB1 ☎ (03) 3363-5995
 ■東京営業所：〒168 東京都杉並区下高井戸1-12-17 ☎ (03) 3323-5241 ■横浜営業所：〒220 横浜市西区北幸2-10-42寺内ビル2F ☎ (045) 324-7776 ☎
 ■北関東営業所：〒331 大宮市桜木町4-929-2 ☎ (048) 644-6800 ☎ ■大阪営業所：〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F ☎ (06) 374-0691 ☎ ■名古屋営業所/
 ショールーム/スタジオ：〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎ (052) 832-1419 ☎ ■福岡営業所：〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F ☎ (092) 531-0166 ☎

©KORG INC. 1992

0402 CTH PRINTED IN JAPAN